

★2月の休館日：3日(月)、10日(月)、12日(水)、17日(月)、25日(火)



プラネタリウム番組のご案内

2月の一般投影 オーロラ～天空を舞う神秘の光～

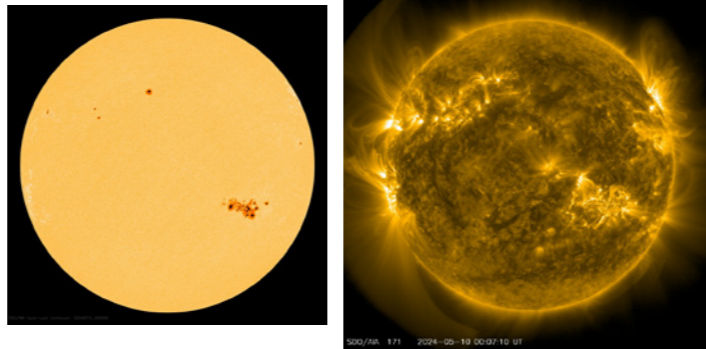
オーロラは、アラスカや北欧などの極地で見られる美しい自然現象です。星空の中、白くぼんやりとした輝きに見えたり、淡い緑や赤に色づいたりします。

オーロラのふるさとは太陽です。太陽の表面温度は約6000度です。その表面には、周囲よりも1500～2000度ほど温度が低い黒点があります。黒点は、太陽の磁場によって生まれ、およそ11年周期で増減します。黒点が多い時期は太陽活動が活発な時で、プロミネンス噴出や太陽フレアとよばれる爆発現象が起きます。こうした爆発現象によって、太陽風と呼ばれる電気を帯びたプラズマ粒子が、太陽から宇宙空間に放出されます。太陽風は、私たちのいる地球へもやってきます。地球は、大きな磁石です。地球を取り巻く磁場の流れが太陽風によってゆがめられ、大きな電流が発生します。この時に発生した電流が、磁力線にそって流れ込み、地球の大気中の原子や分子とぶつかって、発光したものがオーロラです。

太陽活動が活発な時期には、日本からもオーロラが見られることがあります。日本の緯度では、北の低空に赤く見えるオーロラが多いです。古いものでは、日本書紀に「赤気（せっき）」という言葉でオーロラの記述があります。また、播磨町に残される「御月見日記」に、1770年7月にオーロラが見られたことが記されています。1872年2月や1957年9月、1958年2月も太陽活動が活発で、1958年には北海道から山口県まで、広い範囲でのオーロラの観測記録があります。

2024年5月にも活発な太陽活動があり、北海道や青森県では肉眼でオーロラが観測されました。兵庫県でもオーロラが撮影されました。今は、太陽活動の活発な時期で、オーロラも頻りに現れています。今月は、オーロラについてご紹介します。

協力：中垣哲也（オーロラメッセンジャー、AURORA DANCE）
早川尚志（名古屋大学、宇宙地球環境研究所、特任助教）



「2024年5月10日の太陽」(左)白色光 (右)極端紫外線(AIA171)
©NASA/SDO and the AIA, EVE, and HMI science teams.



「低緯度オーロラ」 ©石川県柳田星の観望館「満天星」
撮影日：2024年5月11日 撮影地：石川県能登半島 珠洲市
空で赤や紫に見える光が低緯度オーロラです

キッズプラネタリウム

★幼児や小学校低学年を対象とした子ども向けプラネタリウムです。
土日祝 11:10～14:30～

オリオンとゆかいななかまたち

★1/11(土)～2/24(月・振)★

こども天文教室

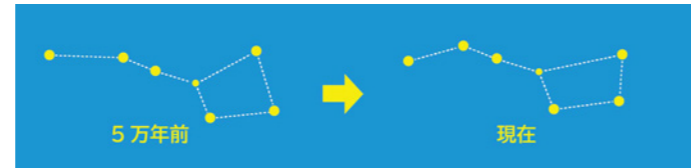
★小学4年生以上を対象に、テーマごとの天文の話題を少し詳しく解説するプラネタリウムです。どなたでもご参加いただけます。

★2/22(土)★ 9:50～ テーマ：星雲星団の観察

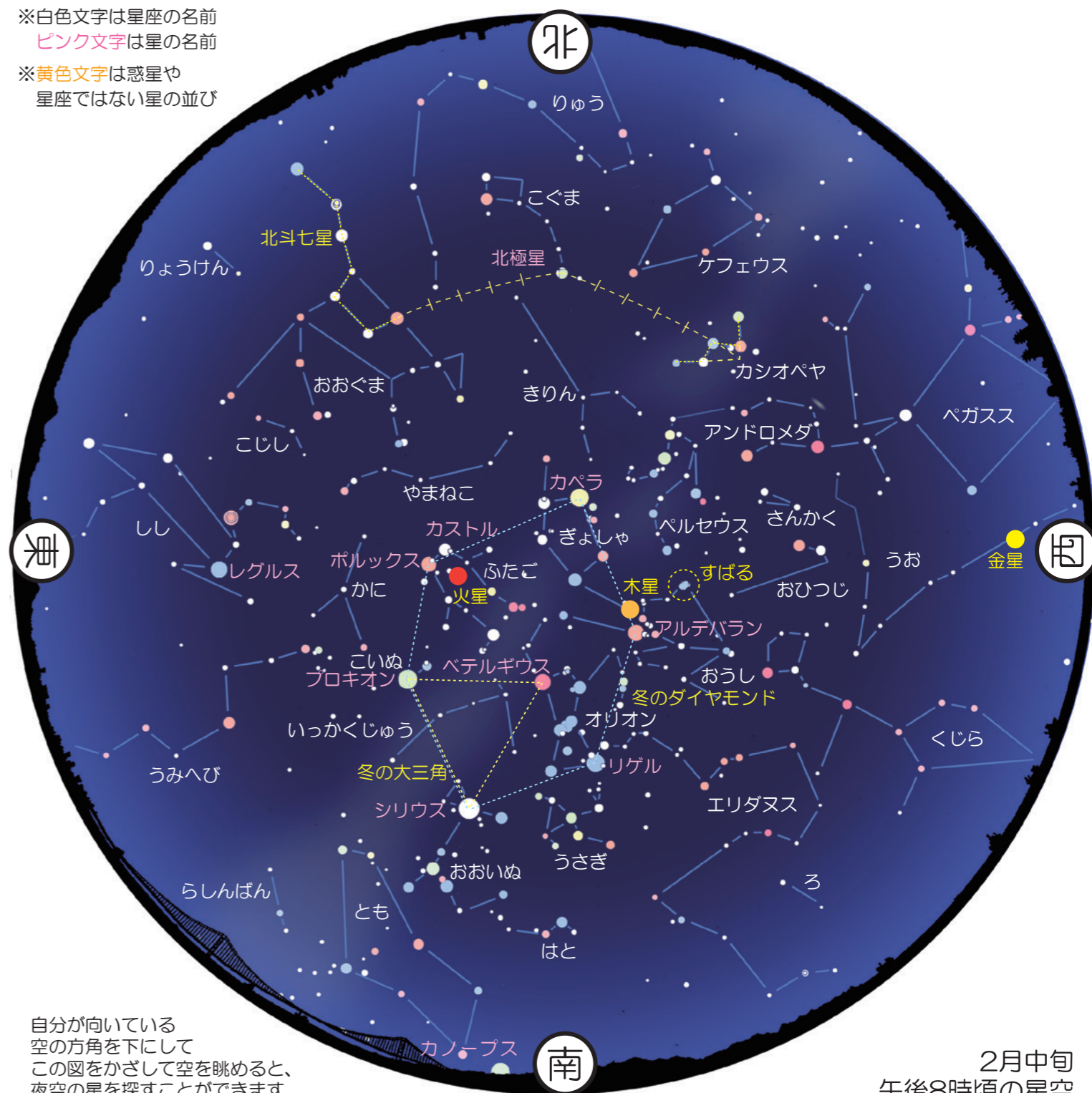


3月の一般投影 明石原人が見た星空

星座などの星の並びは、星座を形作る星たちの「固有運動」により、何万年という年月とともに変わっていきます。明石原人と呼ばれる人たちは、どんな星空を見上げていたのでしょうか？「星の固有運動」をテーマにお話します。



※白色文字は星座の名前
ピンク文字は星の名前
※黄色文字は惑星や星座ではない星の並び



自分が向いている空の方角を下にしてこの図をかざして空を眺めると、夜空の星を探ることができます。

2月中旬 午後8時頃の星空

冬の夜空には、多くの明るい星が輝いています。おおいぬ座のシリウスは星座を形作る星の中で最も明るい星です。このシリウスと、こいぬ座のプロキオン、ふたご座のポルクス、ぎょしゃ座のカペラ、おうし座のアルデバラン、オリオン座のリゲルの6つの星を繋いで出来る六角形は「冬のダイヤモンド」と呼ばれています。

また、日没後の空には、金星がひと際明るく輝きます。2日(日)には金星と細い月が並んだ姿を楽しむことが出来るでしょう。

2月の月の暦

- 5日 上弦
- 12日 望(満月)
- 21日 下弦
- 28日 朔(新月)

2月の日の出・入(明石)

日の出	日の入
1日 6:58	17:29
15日 6:46	17:43
28日 6:31	17:55

2月の天文現象

- 2日 月と金星が並び
- 3日 立春
- 7日 月と木星が並び
- 10日 月と火星が並び(明け方)
- 18日 雨水

3月の天文現象

- 1日 月と水星が並び
- 2日 月と金星が並び
- 5日 啓蟄
- 5日 プリアデス星団食
- 6日 月と木星が並び
- 8日 水星が東方最大離角
- 9日 月と火星が並び
- 12日 土星が合
- 14日 北南米で皆既月食(東日本で月帯食)
- 20日 春分
- 20日 海王星が合
- 23日 金星が内合
- 24日 土星環の消失



©KAGAYA

特別展のご案内

2/1(土)～4/6(日)

KAGAYA作品展

星空アーティストKAGAYAさんが撮影した美しい写真を展示します。